

「日々の理科」(第 3988 号) 2025, -7, -8

「高知紀行 (13)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



短い沖の島滞在でしたが、たくさんの収穫がありました。島の岩石も3種類(花崗岩、花崗閃緑岩、砂岩)かばんにしっかり入れてあります！



白岩鼻(岬)を回り込んだところで、午前中に訪れた製塩所も見えました。これからもがんばってほしいと、改めて思いました。



帰りも鵜来島(うぐるしま)に寄港します。岬の突

端にまるで「観音立像」のような姿の良い岩が見えました。この島の岩石は中生代～古第三紀の硬い堆積岩ですが、浸食を免れて「尖峰」になったのでしょうか。



さっきまでの沖の島は、山頂の妹背山が雲に隠れていました。海洋性の気流に左右されて、島の天気が変わりやすいことを実感できます。



帰りに、「土佐くろしお鉄道」の終着駅「宿毛(すくも)駅」に寄ってみました。一応売店もあるのですが、品数は少なく、すぐに「退去」しました。



翌日は高知空港から帰路につきます。宿毛から空港

までは遠いので、少しでも高知市に近づいておこうと、黒潮町のホテルに泊まりました。海が見えるすばらしい部屋でした。



翌朝、ホテルの近くの浜辺に出ってみました。軽石が漂着していないかを期待したのです。



軽石は、このような満潮時の汀線跡に、ほかのゴミに混ざって発見されることが多いです。今回、硫黄島の「黒い軽石」は1個もありませんでしたが、福徳岡ノ場の特徴的な「白い軽石」は1個見つけました。



引き伸ばされたガラス構造、有色鉱物による「チョコチップ模様」、波浪の浸食をまだ受けていないゴツゴツ感などから、福徳岡ノ場海底火山産の軽石と同定しました。古い軽石は、全体的に丸みを帯びて顕著な

凹凸は見られません。黒潮反流によって一旦南方に運ばれたあと、黒潮本流で流れ着いたのでしょう。



黒潮町から高知市へは、ひたすら海沿いの道を通ります。途中「高速道路無料区間」もありますが、大半は一般道で、このような小さな漁港が点在しています。



このあたりの海岸も、中生代白亜紀から古第三紀の付加体堆積岩が多い土地です。5千万年以上も前の地層なので、当然浸食や褶曲が進んでいます。



基本的には砂岩、頁岩、泥岩などの互層で形成され、浸食速度の差から、地表部（海面上）は凹凸が激しくなっています。この岩は、根室半島の「車石」をミニチュアにしたような形状でした。